



秋情協 ニュース

2013.12

63

一般社団法人 秋田県情報産業協会
〒010-1623 秋田市新屋字砂奴寄4-11
秋田県産業技術センター内
☎018-862-9820(FAX兼用)

第1回地域連携セミナー開催される



挨拶する近藤会長



大勢の参加者

人口減社会に対する行政運営のあり方、自治体同士の業務連携による業務効率化に対する関心が高まる中、地域の自治体から番号制度やシステム共同化の事例セミナーの県内開催の要望が高いことから、アプリケーション・サービス・プロバイダー及び自治体に共通した「電子自治体に対応した新たなスキル・ノウハウ」をテーマに11月21日(木)午後1時より開催しました。

秋田県情報企画課から県内自治体へセミナー周知の協力をいただき、会場は100名を超える会員及び自治体情報化担当者が集い、近藤会長及び後援団体のJISA田原理事のあいさつに続き、2つの講演を聞きました。

一つ目は、「システムの最適化と情報連携について～番号制度導入を踏まえて～」と題して、番号制度の仕組みや導入スケジュールについて、総務省地域通信振興課遠藤勇一専門職に講演をいただきました。番号制度については常に新しい動きがあることから、秋田にしながら最新情報を入手できる貴重な機会となりました。

二つ目は、「秋田県12町村における電算シ

目次

●第1回地域連携セミナー開催される	1
●第20回秋田県ソフト大賞の御案内	2
●第3回理事会報告	3
●人材育成委員会から	4
●平成25年度ANIA参加報告	5
●第39回秋季親睦ゴルフコンペ	6



熱心に受講される参加者

システム共同化の取り組み」について、秋田県町村会総務課高橋敏昭主査に事例紹介をいただきました。50を超える業務の標準化とシステム共同化を実現した全国に類を見ない地域クラウドであり、アプリケーションサービスの提供においては大手メーカーではなく地元企業連合が契約者となった全国初の試みについて聞くことができました。

以下、参加者の感想です。「2つとも良い講演でした」、「12町村共同化の事例が刺激的でした。このような機会があればまた参加したいです」、「改修費と次期システムの形態が課題」、「番号制度関連のシステム改修の前に個人情報保護評価が課題になる」、「クラウド

化はいずれ必要になると思われるが、具体的な提案等情報提供していただける場があればいいと思う」、「システムよりもWBSができる職員の育成・維持など人材の確保が職員数の削減のため難しい」、「大変参考になりました。オープンデータについても聞きたい。楽しみにしています」(以上自治体職員様より)

「現在求められている内容で、非常に有意義なセミナーでした」、「理解しやすい内容でしたが、もう少し時間があればよかった」、「自治業務が標準化され、ビックデータが活用されることになるのでは」、「ネットワーク費用削減をどう考えていくのか」、「秋田県町村会の共同化の効果、現場の声も聞いてみたい」(以上会員より)

当委員会は、会員による地域特性を活かしたICTソリューション及び新しいサービスの提案を実現するため、自治体WGと地域情報化WGを立ち上げています。今回は地域ベンダー及び県内自治体間の交流を深める目的で、自治体WGが企画したセミナーでした。今後も地域情報化WGと共に各種セミナーを開催します。どうぞご期待ください。

事業構想委員長 沢井良一 自治体WG幹事 九島正広

第20回秋田県ソフト大賞の御案内

「未来—夢のアイデア」

未来の生活の中で実現できたらいいなと思う夢や希望等、なんでも良い。

例：「スマートフォンみたいな翻訳機があれば世界中のお友達とお話ができるのに」。

当協会は、未来の人材育成を積極的に進め、地域社会を活性化させていくことを目的に1994年に「秋田県ソフト大賞」をスタートしました。本年は第20回目の節目を迎えるにあたり、メーカーの協賛をいただき、特別賞を設定します。

12月中旬に各教育委員会を通じて全県小・中学校に作品を募集します。締め切りは平成26年1月24日(金)、想定応募総数は1,500件です。2月の審査会で最優秀、優秀、入賞、特別賞を決定し、当協会ホームページで結果を発表します。最優秀、優秀、特別賞



受賞者については、2月下旬に表彰式を行います。つきましては、ご家庭、地域、お客様へのご案内をお願いします。

普及啓発委員長 石田吉行 ソフト大賞幹事 長谷川 敦

第3回理事会報告

平成25年11月5日(火曜日)アキタパークホテルにおいて、第3回理事会が開催されました。まず最初に近藤和生会長より、「新年度から新しい体制・組織の中で活動して約半年になります。それぞれの委員会の活動状況を報告していただいて、直近の承認事項、並びに来年度に向けての活動の検討をお願いしたい。」との挨拶があり、つづいて議題審議に入りました。

議題第1号 活動状況の承認について

① 総務企画委員会

・秋情協ニュース第63号を12月上旬に発行、新春交流会並びに産業交流会を1月17日(金曜日)に開催する。

・未使用の不要絵はがきを回収し、東日本大震災被災地へ送る。(不要な絵はがきを回収する企画は、後日委員会より具体的をお願いをする。)

・周年記念事業の検討委員会の設置(理事会提案事項)

② 人材育成委員会

・新入社員研修は4月～6月にかけて開催した。技術講習、セミナーは、何を要求しているかを知るためにアンケートを実施している。大体集計が出ている。(今回の会報に概略を紹介しております。)この結果を来年度以降の目安としていきたい。

今後の講習会はオープンソースを計画している。

③ 事業構想委員会

・県との情報交換を開催中 6月～8月まで、1ヶ月に一回開催。

・第1回地域連携セミナーを開催する。(今回の会報に記事を掲載しています。)

・情報産業振興基本戦略への要望提出(理事会提案事項)

④ 普及啓発委員会

・第20回秋田県ソフト大賞は12月中旬に作品募集を開始。記念大会なので、協賛4社が決定。表彰式・作品展示を2月下旬に開催

⑤ 事務局

・JISA補助金申請済み(地域連携セミナー・ソフト大賞)

・収入支出状況(第一四半期・第二四半期)

議題第2号 理事会提案事項の承認について

① 周年事業の検討委員会の設置

・H26公益法人化25周年・H27設立30周年・H28第38回ANIA秋田大会(開催の要請あり。H26岡山大会、H27石川大会が決定済み)

この事業に対して、検討する委員会を本年度中に設置し、広くアイデアを集めることを提案する。

(総務企画委員長 菅原 晟)

●今年度中に検討委員会を設置することとした。

② 情報産業振興基本戦略への要望提出

・秋田県は9月上旬まで第2期元気プラン(H26～29の4年計画)、中小企業地場産業振興条例(情報関連産業分野)、情報産業振興基本戦略の骨子及び戦略の方向性、目標数値(新規180億円の創出)を固めています。情報産業振興基本戦略の中で協会会員が貢献できる分野及び機会を確保するため、県に対して次のアクションを求めることを提案する。

◎市町村行政を含めた地域情報化の推進方針、地域IXの総括を問う。(自治体案件の地元受注を実現するため、単なる調達手続の改訂をお願いするのではなく、会員がどのような案件に挑戦すべきかをビジネスとして検討できるようにするため)

◎県が提示する取組分野に対する具体的な要望の提出

(ICT地産地消60億円、秋田のイノベーション推進10億円、大規模マーケット開拓120億円)

(事業構想委員長 沢井良一)

●県に対して具体的な要望を提出することとし、内容について検討に入ることとした。

以上のような審議が行われ、終了しました。

人材育成委員会から

第一回人材育成に関するアンケート実施

今年度より秋田県情報産業協会では各委員会が再編成され、その中に人材育成委員会も出来ました。定款、第3条（目的）にある会員企業の人材育成および情報関連技術の利用促進を図るための委員会活動を行うことを目的としています。

今年度の活動に関しては、前年度からの計画案に沿って3つの分野に分かれて活動を計画しております。

- ・新入社員を中心とした、新入社員教育の小委員会
- ・会員各社の技術力向上のための技術研修小委員会
- ・IT産業に関する情報収集のためのセミナー小委員会

会員企業は業態や規模が様々であり、一概に人材教育といっても、多種多様であるために、出来るだけ会員企業の要望に沿った運営を行うために、アンケート調査を実施することにしていました。

アンケートに関しては、担当理事の山ニシステムサービス（株）の佐々木専務取締役と相談させて頂き、新入社員研修は、幹事会社のエイデイケイ富士システム（株）加藤主任に、お願いいたしました。

10月23日～11月8日、事務局を通じてアンケート調査を実施させて頂きました。20社ほどの企業から回答を得ることができました。また、貴重なコメントを寄せていただいた企業も多く、回答頂きました企業には御礼申し上げます。

各社の要望を集計し、実行可能なものに関しては、来年度の計画に盛り込んでいく方針です。

新入社員研修に関しては、「IT基礎」と「プレゼンテーション」を要望する企業が多く見受けられました。

技術研修に関しては、「人材育成研修」に要望が非常に多く集まっています。1～6項目ありますが全てにおいて、上位10位内に入っています。特にITスキルや最新技術よりも、「問題解決技法」「リーダーシップ」が最上位に位置しています。

セミナーに関しては、今話題の「3Dプリンター」に関心が集まるかと思いましたが、それほどでもありませんでした。また、「メンタルヘルス」などに苦慮しているのではと思いましたが、それほどでも無く各社工夫して取り組みをしているのか、あまり関心が無いようです。

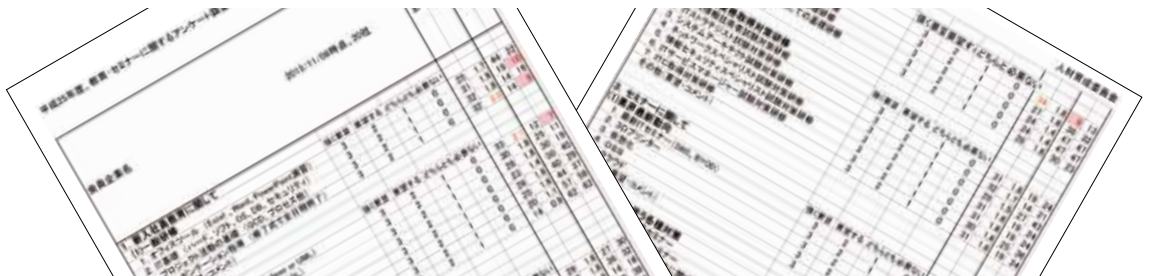
予想通り各社の業態や規模が様々なので、リクエストに関しては種々多様な様相です。その中から、総合ポイントで上位10項目、平均で上位10項目に関して実現可能か実施した場合の優位性などを考慮しながら、来年度の計画に盛り込んでいきます。

また、コメントも多数寄せて頂きました。中でも「営業時間外の実施」「会社の社員教育が終わったあたりからの教育」「助成金利用のため20時間以上の開催」「人材開発研修」など貴重なご意見も寄せられています。大変有難うございます。

全体的な特徴としては、ITの教育よりも人材育成が非常に高いポイントとなっています。また、プログラミングコンテストなどでの技術力向上を図る意見もありました。

今回収集させて頂きました回答及びコメントを参考に、平成26年度の計画に反映させて頂き、2月に理事会に提案できるようにいたします。今後も引き続き会員企業に、少しでもお役に立てるように人材育成委員会の活動をして参りますので、ご協力ご支援宜しくお願いいたします。

人材育成委員長 菅原 恵悦



詳細につきましては協会ホームページに掲載しております

<http://www.aiaa.or.jp>

平成25年度ANIA参加報告

第35回ANIA長野大会(10月10日、11日)

今年の全国大会は「遠くとも一度は詣れ」と言われる善光寺や「天の岩戸」伝説の戸隠神社などで知られ、豊かな自然とおいしい食材がもたらした長寿日本一の長野で「ICTが繋ぐ未来の力」をコンセプトに10月10日～11日に開催され、全国から110名、長野県内から150名、一般参加者50名と300名を超える参加者がメルパルクNAGANOに集まりました。

プレコンベンションの第9回IPA情報セキュリティ標語・ポスター・4コマ漫画コンクール表彰式では、長野県内から応募があった優秀作品を大会会場に展示し、NISA会長賞、長野県警生活環境課課長賞、長野県インターネットプロバイダ防犯連絡協議会会長賞が発表されました。

事務局長連絡会議、臨時総会、理事会に続き、アルプホルンの演奏によりオープニングセレモニーに続き、開会挨拶を頂きました。その後、「サイバーセキュリティ戦略と対策」、

「ぎんれいの開発と地域IT産業の振興について」、「長寿日本一の恵み『おいしい信州フード(風土)』って何?」と題して講演会が開催されました。

懇親会は、ウェルカムドリンク、ピアノとバイオリンの生演奏が流れる中、会場後方から入場した善光寺木遣り保存会の方がたによる唄で始まりました。もともと重い建築用材や岩などを人力で運ぶ時、全体の力を集結する指揮的役割を果たしているそうです。まさにANIA全国大会にふさわしい唄でした。松茸ご飯、信濃牛ステーキ、シナノドルチェ(りんご)など長野県産の食材にこだわった料理を楽しみながら歓談の楽しい時間が流れ、最後は、ANIA大会旗が長野の若林会長から来年開催が決定している岡山の前坂会長に手渡されました。

2日目のエクスカージョンは、真夏を思わせる秋晴れの素晴らしい天気の中、ゴルフ、観光に分かれ、楽しいひと時を過ごした会員がそれぞれ帰路につきました。

総会、理事会(7月11日、10月10日)

アルカディア市ヶ谷にて通常総会が開催され、平成24年度事業報告及び収支決算報告、平成25年度事業計画及び収支予算が承認され、理事・監事の改選においては新会長に長谷川亘氏(一社京都府情報産業協会会長)が選任されました。

事務局長会議(7月12日、10月10日、次回2月7日)

19都道府県の事務局長が集まり、各県の近況報告を聞き、共通課題への取り組み方、地域プロジェクトの横展開、会員増強策・会費以外の収益事業作りについて情報交換が行われました。

合同研究部会(5月21日、9月24日、次回2月)

ANIAに加入する全国の情産協会員企業が参加できる3つの部会(情報サービス産業研究・地域情報化研究・クラウド研究)が年3回程度、合同で開催されており、今年度

第1回目は、総務省ICT成長戦略会議のポイント、G空間データプロジェクトの最新情報を共有しました。第2回目は総務省来年度予算、地理的名称トップドメイン(.kyoto)、JapanExpo報告を共有し、地域が抱える分野別の地域情報化、ITと文化を世界に伝える活動について情報交換・討議が行われました。

第2回農業ITカンファレンスin青森(5/14、5/15)

IT企業は、農業に対する関心は小さく、農業と同じように衰退しているのが現状です。今後、農業従事者と農業に関心のあるIT企業が連携してビジネス展開を行うことが重要と考え、「IT企業と農業と地域の活性化」に取り組むカンファレンスを開催しています。平成24年度は埼玉県で、今年度は青森市でセミナー及び農業視察を開催し、徳島、神奈川、埼玉、千葉、東京、秋田、青森から50名を超える参加者があり、秋田からも4社が参加しました。

事務局 大宮

第39回

秋季親睦ゴルフコンペ



あいにくの雨模様となった11月6日(水)、秋田太平山C.Cで開催された第39回の秋季コンペは、常連の数名が不参加となったが、アイシーエスの吉田文則さん、北日本コンピューターサービスの富樫和直さんの初参加を交えて、8名の方々と和気あいあいのうちにスタートした。

前半を終了して、川合俊昭さんは36のパープレーで上がり、渡部永作さんが45で2位につけた。他の皆さんも50前半で回り優勝の行方は混沌となった。やや雨が強くなった午後、全員元気にスタート。珍プレー、好プレー

を重ね無事18ホールを終えた結果は、川合さんが好調を維持し優勝。森川さんは後半スコアを伸ばし2位に。

初出場の富樫さんが安定したスコアで3位に滑り込んだ。

成績は次の通り。

優勝	川合 俊昭	グロス36+41=77	ネット73.4
準優勝	森川 順一	グロス54+48=102	ネット74.4
第3位	富樫 和直	グロス51+51=102	ネット75.6
ベストグロス	川合 俊昭	77	

新春講演会及び交流会のお知らせ

総務企画委員長 菅 原 晟
普及啓発委員長 石 田 吉 行
事業構想委員長 沢 井 良 一

社団法人化20周年を迎える年の初めにあたり、会員の皆様の新たなビジネス展開と当協会の更なる発展を願い、新春講演会と交流会を開催します。地域内外の企業・団体様とも積極的に相互交流できる場を増やすため、県内自治体様、各種業界団体様にも案内しますので、多くの皆様のご参加をお願いします。

開催日 平成26年1月17日(金) **場 所** アキタパークホテル
講演会 午後4時30分～6時30分(参加無料)

「台湾は欧米・アジアビジネス展開のゲートウェイ(仮題)」

吉 村 章 氏 (Taipei Computer Association 駐日代表)

(Taipei Computer Associationは、優れたソリューションやサービスインフラで世界市場を目指す日本企業を始め世界各国から3万人を超える見学者が集まるCOMPUTEXを開催しています)

「Shangri-la 誰も体験したことのない未知なる味わい!!(仮題)」

NEXT5 メンバー 福祿寿酒造株式会社 代表取締役 渡 邊 康 衛 氏

(NEXT5とは、美味しいお酒を造り、広めるために、秋田の若手の蔵元が立ち上げたグループです。酒造りの主要工程をリレー方式に分担して醸造を行う「共同醸造プロジェクト」により、フレッシュでフルーティな味わいの「新世代の日本酒」を醸しています。12月24日から銘柄第5弾「Shangri-la」を販売開始します。NEXT5のチャレンジにまつわるお話から秋田の情報産業の未来へのヒントをご講演頂きます。)

交流会 午後6時45分～ **会 費** 7,000円/人

編集後記

新体制になってから新たに「第1回地域連携セミナー」や「教育セミナーアンケート」といった事業や試みがあり、当協会の活性化を感じています。事業構想・人材育成両委員会の皆様ご苦勞様でした。今後も従来からの継続事業である「スポーツ交流」「ソフト大賞」「新春交流会」などが開催されます。各委員会が主体となって企画するイベントですので、出来るだけ多くの会員の皆様にご参加・ご協力頂き、当協会の活性化と共に会員相互の交流を深めていただければと思います。

(発行人)

(一社)秋田県情報産業協会

会 長 近 藤 和 生

(編集責任者)

(一社)秋田県情報産業協会

総務企画委員長 菅 原 晟

(印刷所)

(株)くまがい印刷

(発行日)

平成25年12月2日